

會

報

第七号

東京女子大学同窓会数専会



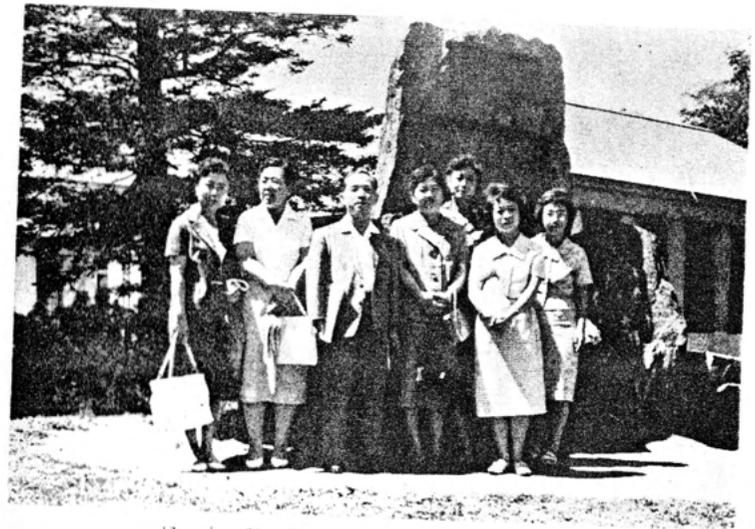
小林先生御家族 (昭和36年5月3日)



小林先生御家族 (昭和36年5月3日)



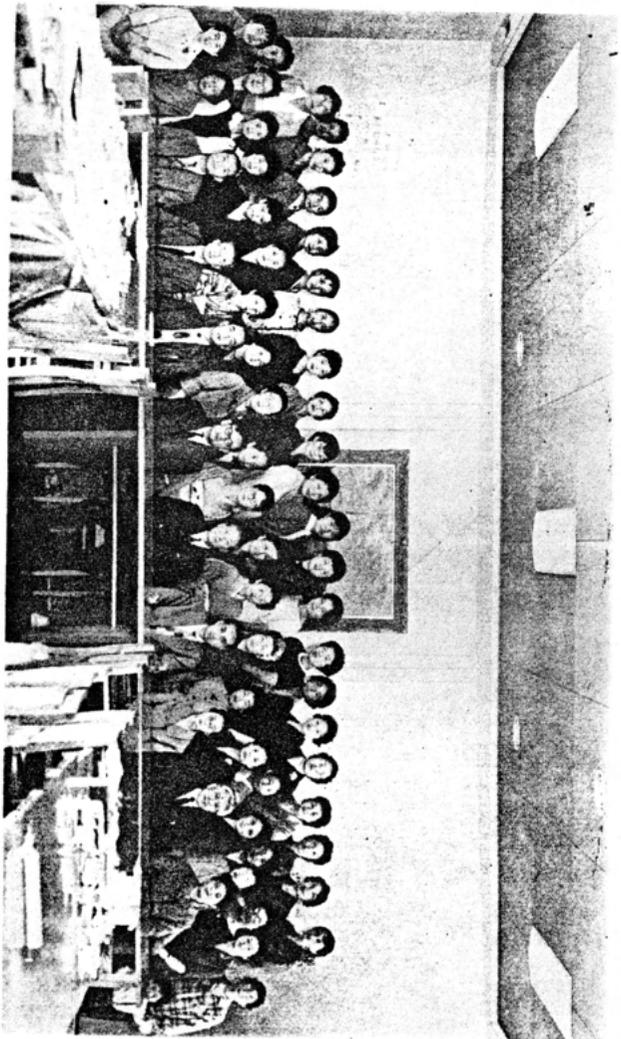
ダンスパーティー (昭和37年1月27日)



日本数学教育研究大会
札幌クラーク記念碑の前にて (昭和36年8月5日)



昭和36年8月5日 札幌にて



教 専 会 總 会 (昭 和 3 6 年 5 月 5 日)

目次

| | | |
|--------------------|-------|-----|
| 数理学科一年の歩み | 高木 貞二 | 二 |
| 束の話 | 正田建次郎 | 四 |
| 数専寄贈図書について | 小河原正巳 | 七 |
| 数専会の祝会に列して | 小林 薫一 | 十 |
| 和田淳藏先生の御感想 | | 十三 |
| 昭和三十六年度数専会総会 | | 十三 |
| 数専会募金収支報告 | | 十九 |
| 学習会報告 | 山本 敦子 | 三十一 |
| 研究部報告 | | 三十三 |
| 小林先生の還歴の御祝の記念品について | | 三十五 |
| 私たちの見た数専会会員の横顔 | | 三十七 |
| 札幌の数専会 | | 三十一 |
| 編集後記 | | 三十三 |
| 数専会卒業生名簿 | | |

数理学科一年の歩み

高木 貞二

われわれの多年の念願であった四年制数理学科の開設は、従来の文学部を拡大改編して創設された新しい文理
学部の一つの学科という形で、昨年四月、実現いたしました。文学部と並んで理学部を開設するという案もあり
ましたが、本学の本来のあり方から考えて、むしろ文理学部として、一つの組織に纏める方がよいと考えて、以
上のような次第であります。

新しい数理学科を作るについて、最初から一番大きな問題として考えられたことは、立派な教授陣を揃えるこ
とでありましたが、幸にして大阪大学から正田教授を御迎えすることができたこととなり、以前の先生方の
ほかに和田助教援をも加えて、ここに整備された陣容の教授陣を見るに至りました。学生の募集は、昨年度の文
部省の審査が特別の事情で一般におくれましたため、認可の発表もおくれ、初年度のことでもあり、入学志願者
の数は文科系の学科に比べて定員との比率が少なかったものでありますが、われわれは文科系学科の入学者に比べ
て学力においては殆んど遜色のない二十三名の入学者を迎えることができたのであります。そして、かようにし
て四月から新しい希望に満ちた学年が始まり、助手も増員され、図書は大幅に増強され、図書室・演習室も整備
され、さらに短期大学部数理科から編入試験を経て、編入された二年次、三年次の学生をも加えて、まことに活
氣に満ち溢れた研究と勉学の生活が本校舎の一角に展開されることとなったのであります。

このようにして、最初の一年を終ろうとするに際し、私の心を強く打ちますことは、数理科開設のために数専
会の会員の皆様御示しになった長い期間にわたって揺ぐことのなかった強い希望と熱心なご支援とであります。

この開設の喜びを迎えましたのも、まことに皆様方の長い間のご尽力がいろいろな点に効いて、その実を結んだ結果にはかならないと思われます。そしてそれを思うごとに深い感謝の念を抱かざるを得ないのであります。われわれは今や数理学科の第二年目を迎えようとしているのであります。大阪大学には、正田教授がその総長として在任しておられることについてもよく知って置いて頂きたいと思ひます。大阪大学には、正田教授がその総長として在任しておられました時に計画され、昨年四月から開設されました基礎工学部というものがありますが、この新しい学部の整備、充実にどうしても正田教授の御力が必要であるということが、時の経つと共に切実に大阪大学の当局に感ぜられ始めまして、その後、大阪大学の当局より、正田教授の大阪大への復帰を度々懇請して来られたのであります。私共はそれに対してお断りをしたものであります。いろいろな事情から今年一月になって、新学年から正田教授が大阪大学に復帰せられることを承認せざるを得ないこととなりました。

これは私共にとりましては勿論のこと、正田教授にとりましては全く予期せられなかったことであります。まことに遺憾なことであります。しかし正田教授の後任としては大阪大学理学部の寺阪英孝教授を四月から新しく御迎えすることができるとなり、正田教授も講師として毎月、従来と同じように御来講下さいますこととなりました。実質的には教授陣はむしろ一層充実したものとすることが保証されているといわなければなりません。また本年夏には二年間のアメリカ留学を終えて根岸講師も帰学せられ、秋の学期からは開講して頂くことになっております。また学生については、本年は数理学科への入学志願者の数も増加し、入学試験の結果、昨年を少し上回るような成績で、三十五名の定員を始ご満たすだけの新入学生を迎えることができました。大きな喜びであります。その結果、新学年からは一年次より四年次まで、全学年に学生を揃えることとなり、明年三月には、東京女子大学の歴史において最初の理学士の称号をもった卒業生を送り出すことができることになったのであります。

終りに臨んで、今後、この数理学科が、伝統ある東京女子大学の一つの学科として、ますます健全なる発展をとげ、立派な卒業生を世に送り、母校の誉れとなることのできますように祈りますと共に、先輩諸師のいつまでも変ることなきご支援を御願ひ申し上げる次第であります。

束 の 話

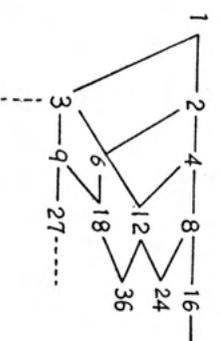
正 田 建 次 郎

数学に限らず、他の科学、或はすべての文化について、対象についてよく見ることに初まり、よく見ることに終るといふことがいえるのではなからうか。問題は、よく見るための方法である。数学には数学の、自然科学には自然科学の方法があり、また数学だけにしても、またいろいろの方法がある。今日では既に数学の常識になっている束の理論も、よく見るための一つの方法、つまりある見方を教えるものといつてもよいだろう。

のように、一列に並んでいる。ここで $a \leq b$ が、自然数と0との範囲で、bからaがひけることを示していると考え、加法とその逆算の減法の代りに乗法とその逆算の除法を考える。というのは $a \leq b$ が、bがaで割り切れることを示していると考え。そうすると前の三つの法則は自然数の範囲で矢張り成立つ。しかしこの場合は第四の法則は成立たない。つまり一列には並んでいない。ある数がそれより左にある数で割り切れるように並べようとする、次のように複雑なものになる。これは極く一部を書いただけだが、このように割り切れるという関係、つまり約数と倍数の関係は複雑なもので、そこに何か法則性を見出すのが整数論の大きな部分を占めている。そ

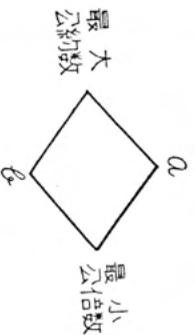
- $a \leq a$
 - $a \leq b, b \leq a$ ならば $a = b$
 - $a \leq b, b \leq c$ ならば $a \leq c$
- の関係があり、例を自然数にとれば、更にどんな a, b についても
- $a \leq b$ かまたは $b \leq a$
- である、つまり大きさによって

1—2—3—4—……



ここでは出発点になるのが最大公約数と最小公倍数という

考えで、それは上の図に於いては丁度四辺形の頂点として示されている。そしてすべての公約数は最大公約数の約数であり、すべての公倍数は最小公倍数の倍数である。そういう数が存在することが大切なことである。



ある集合の部分集合を考えて、部分集合 a が部分集合 1 に含まれていることを $a \leq b$ で表わすことにすると、矢張り、前の三つの法則は成立し、第四の法則は成立しない。そして a と b の合併集合と共通集合を考えると、それは、それぞれ a と b を含むすべての集合に含まれる集合、 a と b に含まれるすべての集合を含む集合である。この点は自然数に於ける最小公倍数と最大公約数の関係に似ている。そして実際自然数 a の代りに a のすべての倍数からなる集合を考え、それを (a) で表わすと、 b が a で割り切れることを示している。つまり $a \leq b$ は $(a) \supseteq (b)$ のことである。加法と減法との関係から b が a で割り切れることを $a \leq b$ で表わしたが、この意味からすると、不等号の向きを反対にして $a \geq b$ と書いた方がよ

いである。この点は自然数に於ける最小公倍数と最大公約数の関係に似ている。そして実際自然数 a の代りに a のすべての倍数からなる集合を考え、それを (a) で表わすと、 b が a で割り切れることを示している。つまり $a \leq b$ は $(a) \supseteq (b)$ のことである。加法と減法との関係から b が a で割り切れることを $a \leq b$ で表わしたが、この意味からすると、不等号の向きを反対にして $a \geq b$ と書いた方がよ

いである。この点は自然数に於ける最小公倍数と最大公約数の関係に似ている。そして実際自然数 a の代りに a のすべての倍数からなる集合を考え、それを (a) で表わすと、 b が a で割り切れることを示している。つまり $a \leq b$ は $(a) \supseteq (b)$ のことである。加法と減法との関係から b が a で割り切れることを $a \leq b$ で表わしたが、この意味からすると、不等号の向きを反対にして $a \geq b$ と書いた方がよ

表わしている。

元来数の四則の等法はいづれも二つの数によって第三の数をきめることである。その意味からは最大公約数を求めることも、最小公倍数を求めることも一種の算法であり、その算法が U 、 N という記号で表わされていると考えることも出来る。そうするとこの算法に関して次のような法則が成立つことは見易い。

$$\begin{aligned} a &= a \cup a & a &= a \cap a \\ a \cap b &= b \cap a & a \cup b &= b \cup a \\ a \cap (b \cap a) &= (a \cap b) \cap c & a \cup (b \cup c) &= (a \cup b) \cup c \\ a \cap (a \cup b) &= a & a \cup (a \cap b) &= a \end{aligned}$$

逆にこのような法則を満たす算法 U 、 N がどの二つの元についてもできるとき $a \cap b = a$ を $a \leq b$ と表わすことにすると、順序集合が得られ $a \cup b$ は a 、 b より大なる最小の元 $a \cap b$ は a 、 b より小さな最大の元になって束が得られる。つまり束とは上のような算法をもつ集合とも考えられる。

整数 n があたえられたとき、二つの整数が n で割って同じ余りができるとき合同であるといって、同じクラスに入れると $0, 1, \dots, n-1$ で代表される n 個のクラスが得られる。整数のよく知られている合同概念である。このようにクラスに分けることを一つの元と考えると $\{n\}$ で表わすことにすると、それ等全部は $\{a\}$ を更に細別

り合理的である。どうしても話は少しも変らない。集合のときは \geq の代りに \supseteq を用いる方が普通であり、それに従って割算についても \supseteq を用いればよいわけである。(a) と (b) の共通集合は (m) 、 m は最小公倍数になり (a) と (b) を含むすべての (t) の共通集合は (d)、 d は最大公約数になる。(d) は (a) と (b) の合併集合ではなく $as + bt$ の形で表わされる自然数から成る。

これまで述べたことは極く初歩的なものを対象とした話であるが、上のように大きい関係と同じような関係は数学の多くの分野に現われてくるので、それに関する一般的な理論を組立てておいて、その見地に立って対象を見直すということは、有意義なこととその理論がすなわち束の理論である。

ある集合があり、その元の間以前の三つの法則を満たす関係 \leq があるとき、その集合を順序集合といい、特にどの二つの元 a 、 b をとつてもそれより大きな元のうち最小のもの、それより小さな元のうち最大のものが存在するとき束をなすという。そして a 、 b によってきまるこの二つの元をそれぞれ $a \cup b$ 、 $a \cap b$ で表わし a と b の結び、交りという。自然数の場合、 $a \cup b$ が最大公約数、 $a \cap b$ が最小公倍数を表わす。また集合の部分集合の場合には $a \cup b$ は合併集合、 $a \cap b$ は共通集合を

して $\{b\}$ が得られるとき $\{a\} \supseteq \{b\}$ ときめると、束をなす。そしてそのとき $\{a\} \cup \{b\} = \{d\}$ で d は a と b の最大公約数、 $\{a\} \cap \{b\} = \{m\}$ で m は a と b の最小公倍数である。このように (d) の作る束、 $\{a\}$ の作る束が考えられそれは全く同じ型、つまり同型である。

代数学に於いて主要な対象になる群とか環とかの理論は次のようにして束の理論に関連する。群とか環とかはある算法のあたえられている集合で、そういうものを代数系という。代数系の部分集合で、その等法について閉じているものを部分系という。また代数系をクラスに別け、そのクラスの間がクラスに属する元によってきまるとき、つまり A 、 B というクラスから、任意に元 a 、 b をとるとき a 、 b を結合したものが常に一定のクラス C に属するとき、そのクラスの集合はまた一つの代数系をなし、剰余系といわれる。

そして剰余系を作ること合同または類別という。すべての類別は束をなす。またその代数系がそれ一つだけ部分系をなしているような元 (例へば整数に於ける 0) を有するとき、その元を含むクラスのなす部分系をなしている。このように剰余系の 0 を含むクラスのなす部分系を特に正規部分系という。これは群の正規部分群、環のイデアルにあたる概念である。部分群全体も正規部分群

数専会寄贈図書について

小河原 正巳

全体も束をなす。これと類別の束を合せてわれわれは三つの束を得た。それ等は整数の場合はずべて同型になり三つ考えることは意味がないが、一般の代数系ではこの三つの束が代数系の構造を研究する有力な道具になるのである。

束という概念はそれが簡単であるだけにその関連する分野は非常に広く、解析学・幾何学・論理学などにかいたても重要な役目を果している。

束という訳語は寺阪英孝博士の提唱によるもので、代数の主要概念が群、環、体、束のように一字で表わされているのも面白くないだろうか。

この一文が生徒さん方、お子様方に数学を教えられるとき参考になれば幸いです。

昭和三十六年二月に文理学部が認可され、四月に数理学科が発足してから、もう年末をむかえようとしています。昨年の夏頃、数理学科設置申請の準備をしていた時分を思うと夢のような感じもします。その頃、学科課程などについては、すでに数回にわたって協議が行われ、大体の案はできていたのですが、最も大きな問題は教授陣をそろえること、つぎに図書および研究室を整備することでした。それで、四年制数学科実現の見通しがついたのは、昨年夏のはじめの頃、学長の御骨折りにより大阪から正田建次郎先生(代数)をお迎えすることが確定してからでした。その後、同じ阪大から新進の数学者和田淳蔵助教授(位相数学)を迎えることができ、現在の数理学科は教授四、助教授二、専任講師二、兼任講師二となつています。学生の方は、初年度の入学志願者数は(定員三五に対し)二三五、入学者(現在の一年次)は二三名、短期大学部数理科から編入した二年次、三年次の学生数はともに二六となつています。短期数理科には現在二年次三年次が残っているわけです。

さて、数学研究室の図書や設備につきましては二、三年前から、文部省の助成補助金を得て、計算機(現在、電動式六台、手動式一八台あります)や外国雑誌のバックナンバーを少しずつ揃えてまいりました。一九六〇年七月末現在の図書数は第一表の通りで、この中には平野雪枝先生がご退任に際して寄贈してくださったブルバキの叢書とプリンストン数学シリーズが含まれております。しかしまたこの中にはリプリント一五〇冊余りと程度の低い教科書類二〇〇冊ほどがありまして、これらを除くと専門書といえるものは一五〇冊たらずであります。大学設置基準としての一学部単行書八〇〇冊以上雑誌五〇冊以上という点は文理学部としては問題がありませんが、一学科単行書二〇〇冊以上という基準に対しては五〇冊以上たりないわけで、雑誌も不十分な状態でした。文部省の助成金では原則として単行書は購入できませんので、昭和三十五年には雑誌のバックナンバーのほかに叢書類十六種約六〇〇冊を申請し、認可されたのですが、これが入荷するのは年度末で、九月の数理学科設置申請には間に合わなかったわけです。

よい内容の図書を一挙にとのえるには、個人のよく揃った蔵書をゆずり受けるのが大へんよい方法なわけです。ちょうどその頃、そのような話があり、学長も大へん乗気になられて、時間をかけて交渉したのですが、複

第一表 図書の増加状況

| | 単行書(冊数) | | | 雑誌(種類) | | |
|----------------------------------|---------|-------|-------|--------|-----|----|
| | 洋書 | 和書 | 計 | 外国 | 国内 | 計 |
| 昭和35年7月末 | 790 | 1,127 | 1,917 | 13 | 10 | 23 |
| 昭和35年9月末 (申請時) | 1,115 | 1,327 | 2,442 | 13 | 10 | 23 |
| 昭和36年1月10日 現在(審査時) 入荷予定を含む | 1,855 | 1,487 | 3,342 | 23 | 16 | 39 |
| 昭和36年11月18日 現在 | 1,934 | 1,505 | 3,439 | 25 | *27 | 52 |

* 寄贈約 20 種を含む

雑な事情のため、実現するに至りませんでした。そのため方針をかえたのが八月のなかば頃でした。ともかく図書の不足分をいそいで補う必要にせまられたわけで、書店の在庫の中から選んだのは洋書三二五冊、和書二〇

○冊で、その総額が約七十万円でした。

ご承知のように、大学としてこういう急場の予算措置は面倒なものです。幸いにして、数専会がその二年ほど前からなされていた募金の、その時の現金総額が（積立預金を除いて）ちょうど七十数万円でありまして、これによって右の図書を購入することができ、申請に間に合わせることができたような次第であります。早速豊泉会長にもこのことをご連絡申上げ、喜んでいただきましたが、全く偶然といえは偶然の一致でこのときの感慨は、いまだに忘れることはできません。

これでもかく形式的最低線に達することはできたわけですが、四年制数学教室の研究と教育のためにはまだまだ不十分な状態でありまして、その後もひきつづき整備につとめておりまして、単行書の購入には専ら数専会の募金をこれに充たせていたゞき、大学としては自分の間、主として雑誌およびそのバックナンバーに重点をおいています。いままでに募金によって購入したものを合計いたしますと、第二表のようになります。この金額は数専会の里村秀子氏（西寮寮監）によるものでありまして、会計報告の詳細は別になされることと思ひます。なお冊数が多いので、ここに書名目録を掲げることには省略させていただきます。

第二表 募金による購入図書

| 募 金 総 額 | | | 1,881,807円 | |
|---------|-----|-------------|------------|-----------|
| 購入図書 | 洋 書 | 543冊 | 1,333,315 | |
| | | 218冊 | 106,640 | |
| | 和 書 | 1961年度分外国雑誌 | 12種 | 92,980 |
| | | 合 計 | | 1,532,935 |

(昭和36年11月18日現在)

これらの図書のうち、雑誌類は新たに設けられた数学第二演習室に、単行書類はそれに附属した書庫に、また応用数学書の一部は数学第一研究室に、それぞれ「東京女子大学同窓会数専会寄贈」として他の書物と一緒にして整理されております。卒業生の方々にも大いに利用していただきたいと思ひます。

なおここで新しい数理学科の様子を少しばかり申し上げますと、入学者は前にも申しましたように、文科系六学科とは別にとり、一年次から一般教育のほかに専門科目もついてあります。二年次までは専門基礎科目を全部必修とし、三年次からは基本的必修科目のほかに、純粋数学関係科目と応用数学関係科目のどれかを重点的に選択できるようになっており、物理学や科学概論、科学史なども関連科目としておくことになっております。また来年からできる四年次では、文科系の卒業論文に相当するものとして卒業研究をゼミナールで指導することになってい

ます。教養として、また社会の要求から応用関係科目を他の大学とくらべて比較的多くおいてありまして、幅の広いわくの中で一年次から時間をかけて勉強できるような配慮されています。「数理学科」という名称も、この間の事情を示すものと了解していただいでよからうかと思ひます。したがって図書の方も、純粋数学関係はもちろん応用関係のものも主なものではできるだけ揃えるようにしています。

この一年あまりをふりかえって見ますと、数理学科の開設とその充実に對して数専会の募金が極めて大きな役割を果たしていただき、また現に果しつゝあるわけでございます。募金の計画と実施に当られた方々の熱意とご努力に對し、また万障を排して募金に応ぜられた多くの会員の方々に對して、図書委員としてここに心から感謝のことを申し述べたいと思ひます。そして、みなさんの温いご援助を数理学科の、そして東京女子大学の発展のため有効ならしめるよう、私たちも努力したいと思ひますから今後ともよろしくお願い申し上げます。

数専会の祝会に列して

小林 薫 一

本日は私達の長い間の願ひでありました四年制大学への新しい門出にさいし、皆さん方と一堂に会し、喜びを共にすることが出来ますことは、この上もない嬉しいこととあります。

昭和二年数学専攻部が創設されてから今年で満三十四年になりますが、本日も出席の皆さん方に接していきと過去のさまざまのこと、わけても、すでに故人になられた安井先生を始めとして国枝・阿部両先生のことなど想ひ出され、感一入深いものがあります。

数学専攻部時代の想い出として、今なお記憶に残っていますことは、例の無試験検定のこととあります。今日の時代と比較してみますと、まことに隔世の観があります。すが、ともかくも当時の学生達の協力によって、あの難関を突破することが出来たことは嬉しいこととあります。また戦時中の数学科の想い出としては、空襲に備えて、入学試験問題をいつも二種類ずつ用意したこと、徹夜でいく晩もガリ刷の試験問題を作ったことなどが苦し

い記憶として残っています。さらに戦後の数理科時代では、最初二年制度でありましたため基礎課程も終り、いよいよこれからとうとうときに卒業させねばならず、したがって充分のことをなし得なかったことを残念に思っています。

このような過去の一つ一つが積み重って本日の祝典をみたわけがありますが、一方高木学長を始めとして歴代の学長の深い思いやりや、九〇〇名に近い卒業生の方々の熱心な励ましに支えられ、しかも思いがけずも正田先生のような立派なお方を迎えて、このよき日を迎えたわけです。長い間この学園に関係しています者として、これに勝る喜びはなく、必から慶祝の意を表する次第であります。

次に、私事になりますが、本日は私のためにも、皆さんお忙しい中を多数お出席下さいましてお礼の言葉もございません。また、只今は身に余るお祝詞、それに記念品まで頂戴し有難く存する次第であります。

私はまだまだ若い積りでおりまして、この自分が還暦などといって、お祝いなど頂くのはどうも筋ちがいのような気がしてなりません。この小林という「オヤジ」が六十才になったからといって何の芽出度いことがあろうか、というような氣持でおりましたが、また考えようによっては年寄りになったから芽出度いのではなく

て「生れた年と同じ暦になる」つまり、もう一度「新しい人生の出発点に戻った」という意味の祝と解釈してお受けすることにしたのであります。現代は何事にかかわらずテンポの速い時代でありまして、昔の考え方や、物差しではもはや通用しない部分も出てきました。昔ならいざ知らず、今日では生きている限り精一杯働かねばなりません。「人生は還暦から」という意気込みで出直したいと考えています。

皆さん方もどうぞ寛大なお心持ちで、もう一度この大きな赤ん坊をお育て下さいますようお願いをかねて、お願い申し上げます。

(一九六一・五・五)

略 歴

明治三十四年群馬県に生れ、県立前橋中学校を経て、昭和三年京大理学部数学科を卒業。後、昭和五年東京女子大学教授となる。
その後東京高等師範学校、東京医科大学等の講師を経て戦後は東京経済大学兼任講師、現在に至る。

和田淳藏先生の御感想

何かこの大学へ来た感想でも書いてほしいという要望なのですが、感想という事になると、一口に言えば家族的でなごやかとでも言いますか、女子大は世帯が小さいという事にもよるのでしようが、個人個人に接して見てもそういう印象を受けます。東京女子大学は女子の大学としては非常に有名で、こちらへ来る前からも、よく存

じておりましたが、卒業生がいろ／＼な方面で非常に活躍されている様に聞いております。

今度数理学科が文理学部に入り、私が受持っている二年生、三年生も随分張切ってやっている様です。私が言う迄もなく大学は自分が専攻する学問に取り組む事により、真理を探究すると同時に、自分自身をも知る所です。そして我々は数学を選んだわけです。数学は一生をそれに打ち込んで余りある立派な学問だと信じます。これからの学生が皆、本心に打込んでやってくれるものと期待しております。

昭和三十六年度数専会総会(五月五日)

一、議長選出 会長指名

吉利

一、書記選出 会長指名

桜井・武田

一、募金経過報告 (鈴木 吉)

一月半端にメ切り、二月、文理学部設置に際して、報告を送りましたが、不手際な点が多く、報告もれ等がありましたので、もう一度最後の報告をする予定であります。

又会員以外の方にもその趣旨に御賛同いただき、御寄附いただきましたことを、ここに報告して篤くお礼申し上げます。

一、事業収入の内訳報告

バザール 溝口
ダンス・パーティー 中屋
学習会 寺光

一、研究会報告 中屋

現在文理学部設置後は息を抜いた感じで、やや低調の様子です。

読書グループ

高校数学

統計学

一、三十五年度会計報告 里村

一、会計承認 会員一同(会計監査・朝永)

一、数専会のありかたについて

二・三年前から数専会のあり方に批判の声があり、数専会が同窓会と同じような形で運営されていることが、同窓会と競い合うようで面白くない。又、同窓会と研究会の中間のような曖昧な会ではなく、はっきり会員制の研究会としての性格を打ち出した方が、良い等の意見があります。このことについて先日、幹事会にはかった結果、総会に提議し、会員の皆様にお考えいただくことに決定いたしました。

また先の二・三の意見については、これまでの数専会の活動から判断して、同窓会にはり合うという見方は少し見当外れの様で、同窓会との協力は常に相互的なものであったと思います。会員制についても、少くも理学部設置が実現する迄は同窓会と研究会の両性格を持った会としてやってゆく方が良くと思

います。

幹事会としては今ここでは現状を維持してこれからのあり方を少々換えてゆくようにして行ってはどうかと考えております。例えば、通信費については昨年は募金へまわすということで皆さんから徴集しましたが、今年度は通信費を省き、荻窪便りの一部を使って報告を行うことを幹事会に提案し、同窓会には通信費を払っていることであるし、やはり会則に基いて徴集しないことを決議、皆様に御承認いただくことになりました。

その他、当会のあり方についてお考えのある方は幹事に申し出ていただき、結果幹事会で一年熟考した末、来年度の總會で皆様にはかることにしたいと思います。

一、豊泉会長挨拶

比度は文理学部開設の運びとなり、本当におめでとうございます。高木学長の並々ならぬ御尽力により遂に認可のおりる日の参りましたことを心から感謝いたします。しかし開設された今、これから本来の姿としてようやく第一歩を踏み出したとの感が深いように思われます。

昭和二十三年以来、四年制の開設を歴代学長にお願ひしつづけては来ましたが、とても実現への見通

しは暗く、私共の努力も空しいのではないかと一度も思ったものでした。

しかし数専会発足以来、待ちつづけた夢が今、ようやく実現し、しみじみ感慨にふける時、私には三つ忘れられないことが思い浮んでまいります。これをお話して私の今日の挨拶にいたしたいと思います。

四十周年記念の集りの時、高木学長から四年制について「実現の見通しは暗いが、あるべき姿を肯定して、そこから出発しよう」とお言葉がありました。が、実現をみた今もより高いものを求める私共は非常な喜びと感謝をもって今後も努力をつづけたいと願っております。

数専会が始って以来四年制にすることについて、誰も異議なく一致協力して十年努力して来たという事は誠に尊いことだと思います。更にこの後には先生方の深い愛情という支えがあり、つづがなく、この会をこれまでに育てて来ることが出来たのです。

最後に、「切なる祈りは必ず神は聞き給う」という信仰をいよ／＼確信出来たということです。

女子大がこの新しい数理科を置いて、歴史の流れの中で最も意義深い一頁を飾ることを思います。学長先生の云われる通り、実現したにしても後の維持

が大変である私達は今その苦勞を再び対面している。高木先生の御苦勞もこれからが一層と思われます。しかし私達は卒業生としてほこりを持ってこれからも及ばずながら力になりたいと思っております。

一、図書目録贈呈

一、高木学長挨拶

比度この四月から長い間の希望であった四年制が新しく創設され、文理学部として発足したことは喜びに耐えられません。これは私の力でも何でもなく、盛上の氣運と大学に今も働らいている精神が生み出したものであると思えます。

この大学に職を奉ずるようになって、その歴史を勉強したが、その時以前から感じていたことではあったが、この女子大は文理学部としてたつてゆくべきものだと感じ、そこにこの大学の精神のあることを知りました。又このために初期の先生方がどんなに苦心を払ってこられたかしみじみ／＼知りました。私は今こそ文学部だけであるが、実は文理学部又は理学部を併立して本当の総合大学として進んでゆくべきであると強く感じました。

それに前後して、豊泉さんから四年制にして欲しいのと希望があり、そのとき私はどうしてもそうあるべきと考えたが、実際問題としては数学専攻科が

出来た時同様、困難な問題でありました。しかし手をつかねて見ていたのでは駄目で、種々の面で困難に出合い乍らも、常にその様な方向へ進もうとして参りました。そしてその間たえまない努力を続けることが出来たのは数専会の皆さん方が熱心な希望を持ちつつ来て来たお蔭であると考えます。この大学の卒業生の中で数専会が一番まとまって、学問その他意味あることをつづける気配が強い。それを考えても数理科を育てて下さった平野先生はじめ諸先生方の努力のたまものであると思います。

それに励まされて私もどうしても皆さんの希望に答えなければと思いました。実際には新しい先生に来ていただく方法を構ずること、設備、特に図書の充実をはかることが第一でありました。特に苦心したのは立派な先生に来ていただくことでありましたが、今はそれも実現いたしました。

図書についても数専会の努力がみのり、募金によって沢山の書物が購入され、洋書四一一、和書二十五冊、雑誌十五種、概算一三〇万すでに皆様の御好意による御寄附で新しい図書室に置かれ、学生の研究の役に立つように入入れられています。又平野先生に御退職の際貴重な文献を多く寄贈していただきました。ここに数理学科の創設されましたこと

は御同慶の至りであります。私も心を勞したこともありましたが、これは皆様の熱意とケンカクの精神に動かされたものであります。又理学部ということについても考えましたが一学科では少し無理なのでとりあえず文理学科として出発することとなりました。今後本当にバランスのとれた巾の広い立派な教養を与え、立派な婦人を輩出する基礎がここに出来たのであります。

女子大の歴史においてこれは記念すべき事でありませんが、我々はこれで満足すべきでなく、更に理科学科をふやしてゆくことも考えねばならない。これは易い道ではありませんが、先にも云ったように手をつかねているだけではいけないのです。この先我々は更に努力と熱意をかたむけねばと感じます。ここに開設をよろこび皆さんの援助とべんたつに心からお礼申し上げます。

一、正田先生歓迎の挨拶

会長さんも云われた通り、いよ／＼四年制数学科が設置され、よろこびにたえません。更にこれに際して正田・和田両先生をお迎えしたことを心から喜ぶ次第であります。

先生方にもよろしく御指導下さいませよう、卒業生としてお願いいたします。ここは女子大でありま

すが、よろしく御期待を持って御指導下さい。卒業生会は大きな一つのクラスの様なもので大変仲が良いのです。時にはこちらの方にも御指導をお願いいたします。

一、正田先生ご挨拶

大変ご丁寧な歓迎のお言葉恐縮です。前の大学の中には女子学生もおおり、この大学の卒業生も居ましたが、こちらでは女子大学生ばかりで少々勝手が違うが追々勉強してゆきたいと思えます。

私は東大を出て、ずっと高木先生につき、ドイツではネッカーという婦人のプロフェッサーについて数学を勉強することを覚えましたが、今度その高木先生のおられる大学へ来て、教えるという事は何か因縁があったようです。それに婦人の先生に教えていたゞいたので、ご恩返しに御婦人の指導する積りです。本日はどうもわざわざ／＼ありがとうございます。

一、和田先生ご挨拶

正田先生についてこちらへ参りましたが、歴史が浅いので、色々御指導をお願いいたします。

一、小河原先生歓迎の挨拶 中屋

数専会には大部前から話が出ていて、小河原先生の歓迎会を早く開く積りでしたが、先生が余りに身

近でお世話になりすぎていたので、歓迎を忘れてしまった様な工合でした。先生にはすでに四年一ヶ月の間、数専会ゼミの指導をしていただいています。ここでお詫びとともに歓迎の言葉を一言云わずにいられませんので申し上げます。

一、小林先生還暦のお祝い 船橋

小林先生は一九〇一年一月一日にお生れになりました。今年還暦をお迎えになり、私共が一緒にお祝いさせていただけますことを本当に嬉しく思います。昭和五年女子大に來られ、一回生からお教え下さりながら、少しもお年をとられず、声をかけていただく末だ学生でいるような気分です。学校も文理学部になり、先生もいよ／＼お若くごかつやくになることと思えます。卒業生のためにもこれからも元気でおすすめ下さい。

今日は本当におめでとうございます。

一、記念品贈呈

一、小林先生のこと 平野先生

昭和二年、今から三十四年前に開設、三年に私が仙台からこちらへ来た頃、専攻部では阿部先生が中心になっておられました。兼務であったので中堅になって専門に仿らいて下さる方をということをお井先生と話しておられました。学校に向いた先生を

ということでも慎重にお考えの末、二年後五年の春お出でいただきましたのが小林先生でした。

それから今日まで専攻部が数学科に、戦後数理科に変わりましたが、心身うちこんで熱心に御指導下さったことはここに知られる皆さん一人々々がよく御存知のことと思います。

私も先生と一語に伺って参りましたが、先生は学生を本当にいつくしんでこられたことをよく見、感じて来ております。先生御一家も女子大一家と云われる程の女子大ファンであることも、先生がどんなに女子大を愛しておられるかの表われでありましょう。開設当時は設備も貧弱で学生も少数でしたが、今年とうとう四年制開設に至ったことにも先生の力の大きく伺らしていたことが思われます。

そして小林先生を学校に迎えられた故阿部先生にも感謝申し上げねばなりません。還暦と申しますとこれまでは長寿のお祝いでしたが、園遊会に角筈の同窓生が還暦を迎えたというのでおどろきました。今では還暦も若いので、これから人生の円熟期に入るといふことであるように思われます。小林先生も大変お元気なので大いに期待したいと思えます。公私含めて小林先生に感謝とお祝いを申し上げます。

一、 鈴木つた子

三十年前先生にお教えねがったものとしてお祝いの席につらなることが出来ますことを本当に喜ばしく思います。阿部先生をお父様に、お若くて憧れの的であった平野先生をお母さまともお姉様とも、小林先生をお兄様として大変家族的な楽しい学生生活を送ることが出来ました。

私共は十名のクラスで勿体ないような御指導いただきましたが力の程は……。

その頃はこのあたりは創立十二年で未だ武蔵野の面影が濃く、講堂のあたりはすすきの原で秋には月が美しかったものです。その頃は外への散歩に、或いは授業につれて行っていたいたものです。文理学部も開設され、これからは益々御活躍下さい。

一、 山本しずえ

私共はこれまでのクラスでも一番人数の多い時で小林先生は大変怖かったのであまり我まは申し上げませんでした。一度私共がいたずらをした所が先生はクラスを間違えて、二時間に亘りお叱りになり気がつかれた時にはさすがにがっかりなさった御様子でした。

募金のことで私の家へお見えになられた時、大変おやさしかったのでこれまで怖かったのは私共の不

勉強の所為だろうということになりました。

これからも以前にお変りなく御指導下さいます様おねがいいたします。

一、 小林先生のご挨拶

本日は私達の長いねがいでした四年制の新しい門出に際して皆様と一堂に会して、お祝い出来ますことを大変うれしく思います。数理科開設以来三十四年になるが、皆さん一人々々の顔を見てみると様々な感情が湧いて感慨無量です。

古い時代のことだと思ひ出されることは、昭和十五年頃無試験検定で皆さんに苦勞をおかけしましたが、無事のりこえることが出来本當にうれしく思いました。戦時中、当時教務をしていたので空襲に際してつねに試験問題を二種類持っていたり、又印刷のためには徹夜で三晩もかかってガリバンで刷ったりしたものです。高木先生や九〇〇人近い人数の皆様と共に正田先生をお迎え出来ることはまことに夢のようでありませぬ。

私事になりますが、還暦のお祝のため、お忙しい所をお集り下さり感謝にたえません。只今も身に余る祝辞と記念品まで頂だいし恐縮です。

実は私は未だ青二才の積りでいます。小林薫一が六十になったといつて何が目出たいかと思つていま

したが、考えてみると自分の暦にもう一度たちかえったのだ、もう一度人生が始まったような気持ちでお祝を受たいと思います。云いかえれば今年生れた赤ン坊で六十の赤ン坊じや、ちょっとヒネているが、これをきっかけに新しく出なおしたいと思つているので、この赤ン坊をよろしく育てて下さい。

最後に皆さんの御好意に厚くお礼申し上げますと共に今後共よろしく。



数専会募金収支報告

| | |
|-------------------|-----------|
| 収入の部 | |
| 寄附金収入 | 1,956,781 |
| 預金利息 | 72,656 |
| 雑収入 | 160 |
| 計 | 2,029,604 |
| 支出の部 | |
| 学校へ寄附 (図書費として) | 1,636,671 |
| 通信費 | 42,797 |
| 印刷費 | 13,380 |
| 旅費 | 5,755 |
| 雑費 | 5,618 |
| 積立貯金立替(清川氏) | 200 |
| 計 | 1,704,421 |
| 差引残高 | 325,183 |

寄附金収入内訳

| | |
|--------------------|-----------|
| 寄附金 | 1,598,883 |
| 事業 | 357,898 |
| (学習グループ パーティ純益) | |
| 計 | 1,956,781 |

36年2月1日現在で完納して下さった方
方の名簿の中、下記の方々のお名前がも
れていましたことをお詫び致します。
20 倉田美沙
33 近藤文江
33 森孝子
33 高橋宏
積立貯金で通帳のかえつてこないもの
10名分 合計 57,600

昭和37年2月12日現在

バザ | 報告

| | |
|--------|--------|
| 収益の部 | |
| 依託品純益 | 8,420 |
| 御寄附品売上 | 15,840 |
| 計 | 24,260 |
| 支出の部 | |
| 諸費用 | 260 |
| 差引純益 | 24,000 |

ダンスパーティー報告

募金実行委員会主催でダンスパーティーを計画し、第一
回を昭和三十四年十一月二十七日私学会館で、第二回を
昭和三十五年十一月十九日O・A・Gで開催いたしました。
皆様の御協力により第一回に七万円、第二回に六万
五千元を寄附いたしましたことは総会などで報告いたし

ました通りでございます。

募金の期間も終り、実行委員会も解散いたしましたので
第三回の開催につきましては考えたのですが、会員の
親睦のためにやってほしいという一部の御希望もあり、
また図書費も二回までは払い込みましたが第三回分がま
だ殆んど集って居りませんので成功すれば少しでも寄附
が出来るし、もし失敗で赤字になるようなことがあつた
ら今回限りでやめようという話し合いで第三回目を計画
いたしました。

会場がなか／＼見つからず、学校関係には貸さないと
いうのを学校の名を出さない約束で永楽を借り、とりあ
えずS・S会という名称をつけ、一月二十七日に開催い
たしました。前回までに比べて会場費など経費がかさみ
心配してはいたのですが、中村先生のデモンストレーショ
ンのおかげか学生の方達の御協力が大きく相当の盛会で
ございました。中村先生は第一回、私学会館のときは全
全お出来にならなかつたのですが、二年間の御努力のあ
とすばらしくほんとうにお立派でございました。「二年
間であんなに上手になれるのなら」、「あの御年輩で大学
の先生がなさるんだから」、今からでも始めようかしらと
いうささやきがあさらこちらで聞えていたようです。健
全なダンスをひろめるために中村先生の功績は傑大であ
つたというわけです。また池野さんの御子息のバンドが

友情出演して下さいましたし、また受付にクロックにそ
の他かげの力となってお手伝い下さった方々の力もまた
大きいものと感謝して居ります。このような皆様の御協
力で今回は二万五千元を図書費として寄附することがで
きました。親睦のためにも役立つし数学の図書が少しで
もふえるなら、また第四回もした方がよいかしらと話し
合つて居ります。

なお中村先生のデモンストレーションを御覧になりそこ
ねて残念に思つて居られる方がおありでしたら、八ミリ
のフィルムがございますから総会の時にでも映写したら
よいかと思います。また中村先生が第一番に模範をお示
し下さつたのですから、第二・第三とつゞいて下さる方
の出現をお持ちしています。今後のこの会のあり方につ
いて御希望や御意見のおありの方はどうぞお聞かせ下さ
い。

(中屋澄子)



学習会 報告

山本 敦子

この報告を書いて下さる菅の山本静枝様があわただしくアメリカへお発ちになられましたので、楽屋裏の仕事丈引受けた私がとうとうこの報告を書くことゝなりました。

三年前の一月の事、数専会の募金がなかなか集らないので何か数専会らしいお金儲けの仕事はないものかというところを考えた末、山本静枝様の肝入りで学習会という名のグループが生まれました。卒業生の中から御奉仕戴ける方々を募り、一人の先生に五・六人の生徒をお願いして数学の家庭教師をして戴き、生徒の授業料の中から毎月交通費と講義料を差引いて残りを一ヶ所に集めて整理し、募金に廻そうというわけです。だん／＼にクラスが増え、十組も十五組も出来ると事務はてんやわんや、なれない仕事に悲鳴をあげましたが、それでも多くの方々の御協力によって一九六〇年九月に十万円、六一年三月に六万八千二百三十八円を図書購入に、一番必要な時期に現金で母校に御渡しすることが出来ました。

これも、郵送料や教材費を黙って御負担下さり、御家

六〇年一月から一九六一年三月まで一年余りの皆様の有形無形の御援助を一つ一つ思い返し、心から感謝しつつ、左の通り御報告申し上げます。

尚この学習会に入会した生徒は、小学・中学・高校生合せて百二十名、講師として竹名英一郎先生はじめ杉多津・黒崎千代子(12年)・清水不二・矢野晴美・吉田萌子・山本静枝(23年)・天谷裕子・隅田信子・三つ矢伊津子・古永正子(24年)・小山澄子(25年)・相良信子(27年)・伊藤徳子・近藤茂子(31年)・様方が御協力下さり、浜野陽子・後藤京(24年)様は御部屋を解放して下さいました。又、八十島栄様(23年)はたくさんの生徒を紹介して下さいましたし、寺光よし子様(8年)は事務全般を一手に引受けて下さいました。

終りに貴重な御時間を割いて私共の相談に応じて下さり、御力添えを戴きました小林先生・中谷先生に感謝申し上げますと共に、数専会から学校へ贈られた図書には、数専数学科卒業生の色々な形の真心が込められていることをお知らせ致します。

数専会学習グループ会計報告

| 支出の部 | | 収入の部 | |
|-----------|---------|------|-----------|
| 講師講義料及交通費 | 488,187 | 授業料 | 640,000 円 |
| 教室借料 | | 入会金 | 57,000 |
| 仙川教室 | 14,500 | 預金利子 | 1,549 |
| 波谷教室 | 16,500 | 雑収入 | 419 |
| 教材費 | 3,430 | | |
| 事務費 | | | |
| 消耗品費 | 6,156 | | |
| 現金送料 | 1,957 | | |
| 計 | 530,730 | 計 | 698,968 |
| | | 差引益金 | 168,238 |

この報告について詳しいことがお知りになりたい方は数専会研究室数専会の戸棚に資料が全部整理してございます

(1961年4月15日)

庭の一室を教室として無料で提供され、電話料や交通費などの事は一言もおっしやらずに生徒を集めて下さった卒業生の方々に必要なら必要な教室を格安で提供して下さった学外の方々の御蔭と感謝の外はありません。一九

昭和34年度数専会会計報告

| | | | |
|--------|---------|----------|----------|
| 収入の部 | | 前年度より繰越金 | 87,843 円 |
| 終身会費 | 14,500 | 通信用料 | 7,300 |
| 通信費 | 7,300 | 広告折込 | 3,500 |
| 通寄 | 3,500 | 計 | 113,143 |
| 雑収入 | 50 | | |
| 計 | 138,034 | | |
| 支出の部 | | 通信費 | 12,549 |
| 通信用料 | 9,200 | 印刷費 | 31,000 |
| 事務費 | 900 | 数専会茶菓費 | 1,190 |
| 数専会茶菓費 | 1,190 | 講演御礼 | 3,000 |
| 講演御礼 | 3,000 | 研究部費用 | 1,000 |
| 研究部費用 | 1,000 | 数専会ゴム印 | 570 |
| 数専会ゴム印 | 570 | 計 | 59,409 |
| 計 | 59,409 | | |
| | | 次年度へ繰越金 | 53,734 |

昭和35年度数専会会計報告

| | | | |
|------|---------|----------|----------|
| 収入の部 | | 前年度より繰越金 | 53,734 円 |
| 終身会費 | 35,500 | 通信費 | 10,763 |
| 通信費 | 47,750 | 数専会茶菓費 | 16,050 |
| 通寄 | 1,000 | (新卒業生祝) | 3,230 |
| 雑収入 | 50 | 雑費 | 760 |
| 計 | 138,034 | プローチ立替 | 7,800 |
| | | 計 | 38,603 |
| | | 次年度へ繰越金 | 99,431 |

研 究 部 報 告

昭和三十六年四月、文理学部が出来て数理科は四年制の大学となりましたので、今までつゞけて来た研究会も今後のあり方について考えなければならぬと思います。もちろん研究会は勉強したいという熱心な人達の集りでは力さえつけばよいわけですが、資格ということも必要ではないでしょうか。私たちは数理科が四年制になることを熱望して、あらゆる努力をつゞけて参りました。今それが実現して今後の卒業生は四年制の大学卒となるのですが、以前の卒業生は短大出という名のもとで不偶な目にあっているのを何とか救う方法はないでしょうか。それには学校で単位のとれる講習をやって頂くのもよい方法と思いますが、これは相当困難なことでしょう。しかしたくさんの希望者が熱心に学校にお願いすればあるいはやって頂けるのではないかと思います。

この大きな希望に対する第一歩として、私たちの研究会のあるものを数学研究室主催として頂きました。このようなゼミが幾つか出来て、だん／＼強力なものに盛り

立て、行ってそのうちには単位のとれる夏季講習でも実現させたい。そのいとぐちにもなれば幸せと思っております。

昭和三十六年四月から、小河原先生の「統計ゼミ」は数学研究室主催となりました。数専会研究部主催のものは「読書グループ」と(高校数学の復習)の二つで次に責任者の方に報告していただきます。なお大学の講義を聴講御希望の方も居られることと思いますので三十七年度講義題目を発表して頂きました。(中屋澄子)

読書グループ

川喜田弘子

高校数学の復習

古利花枝

統計ゼミ(小河原先生、数学研究室主催)

石井千恵子

【読書グループ】(数専会有志) 中谷先生を中心に月一回、四月二十一日(土)より午後二時半、数学研究室。四月に読んで来る本は岩波新書「宇宙と星」(畑中武夫)

大体新書判位の本を二ヶ月で一冊位のわりでやる予定。

責任者 新宿区下落合一ノ四七九 川喜田弘子

電話(九五二)二六五〇

【高校数学復習の会の報告】

昨年四月に入会された三四人の方を加え、現在では八人位が月二回、同窓会館の二階の畳の部屋に集って仲よく勉強して居ります。

新会員は数Ⅱの代数問題集をはじめ、間もなく終ろうとして居ります。旧会員は四年もつゞけている者もいて二年つゞけて大学入試問題集代数幾何をやって居ます。二週間で代数二十題、幾何六題を宿題にして集った時お互に疑問のところ等教え合ってやって居りますが、六月にはこれも一応終了予定ですので、その次は何をしようか目下相談中です。入試問題にも少しあきたので、何か変わった方法をとり度いと思つてます。又昨年まで会費を集めて居りましたが、その必要もないので、今年一月から会費なしにしました。(吉利花枝)

【統計ゼミ】(小河原先生、数学研究室主催)

毎月第二・四木曜日の夜六時から八時頃までの約二時間、小河原先生御指導のものに勉強をつゞけております。

一昨年四月より Feller 著「An introduction to pro-

bability theory and its applications」を読みはじめ、Markov 連鎖、簡単な確率過程等について勉強し、昨年十二月によく読み終わりました。その間、参加者の中に教職についておられる方が多いので、実際に役立てばと思ひ、清水利信著「因子分析法」を併行して読んでいただくもあります。四月からは新しいテキストとして P. R. Center 著「Notes on operation research」を読む予定です。

この本で取り上げているような問題をお仕事で扱っておられる方も多いと思いますが、実際に起るいろ／＼な問題を提供して下されば、参加者一同のためにも勉強になり、より有益な会となることでしょう。

一月から四月までの三ヶ月間は、情報理論について簡単に学ぶため、国沢清典著「ORのための情報の理論入門」及び Khinchine 著「Mathematical Foundations of information theory」を輪読しております。

現在参加者は毎回十人前後です。四月からは前述のような計画です。自分にとって興味ある問題、勉強しておく必要のある問題のときのみ御出席下さってもかまいません。ふるって御参加下さい。(石井千恵子)

私たちの見た数専会会員の横顔

— 実態調査報告 —

短期大学部数理科2年生

§ 1. 東京女子大学数学科の変遷

東京女子大学数学専攻部（4年制）は、昭和2年4月に創設され、昭和6年3月に第1回卒業生を出し、16年3月の第11回卒業送順調に経過したが、第12回は16年秋に卒業し、以後16回迄は3年で卒業している。

戦後第17回目は再び4年で昭和22年3月に卒業したが、これが数学専攻部の最後の卒業であった。昭和19年4月にできた専門部数学科（3年制）の第1回卒業生も、同じ22年3月に出ている。

この数学科は27年3月に最後の卒業生を出し、一方25年4月にできた短期大学部数理科（2年制）の最初の卒業（この最初だけは2年制数学科となっている）は26年3月で、これは29年4月から3年制に延長され、その最初の卒業生も30年3月に出た。この3年制数理科は38年3月に最後の卒業生を送り出して廃止されることになる。

そしてその38年3月には、36年4月に設置された文理学部数理科の第1回卒業生も出る予定である。

§ 2. 調査方法

私達は常々「女子が数学を学んで何になるのだ」という世間の声に対して、漠然とした答えしか出来ない事を不満に思っていた。科学の進んだ今日、数学の重要性というものを身近に感じ、そこで学窓を巣立った後、どのような社会の構成分子となっているかを、先輩諸師の御協力を得て、アンケート調査を行った。

昨年（昭和36年7月）卒業年度別に、ランダムに五人中3人の割合いで計300名を選び出し、調査用紙を送ったところ、回収率（同年8月回収）が悪く3分の1の115名であった。これをもとにして結果を割り出すには、少し大まか過ぎるという懸念もあるが、大体の線をつかま

るところにまとめることにした。

ABCは年代区分で

- A、昭和7年～15年卒
- B、昭和16年～26年卒
- C、昭和27年～35年卒

である。

なお、この調査は短期大学部数理科2年一同によってなされたが、まとめたのは主として味岡節子、今村苑子、吉見佳子、白鳥祥子である。

§ 3. 調査結果

I、卒業後の進路

調査の質問としては「数理科卒業後たどりの進路」というのであるが、その職業内容を明らかにしたいと思ひ、次の質問「職業経験のある人はその種類を詳しく」という項目に対する解答と重複するものが多ので、その結果を加味した値を示している。

教師——小学校～大学

一般事務——会社事務員

専門事務——数学関係の研究室とか電子計算機のプログラマー等

編入学者——他学部又は他校等に転入学する者

家庭生活——結婚する者、家事手伝等

第1表

| | A | B | C | 計 |
|------|----|----|----|-----|
| 教師 | 6 | 19 | 8 | 33 |
| 一般事務 | 0 | 6 | 16 | 22 |
| 専門事務 | 1 | 11 | 8 | 20 |
| 編入学者 | 0 | 5 | 6 | 11 |
| 家庭生活 | 4 | 14 | 7 | 25 |
| 計 | 11 | 55 | 45 | 111 |

総合的に見ると教師が多いが、これは戦前戦中のまだ女子の数学分野が開拓されないう頃の仕事で、戦後はほとんど女子大生の教養を以って一般会社の事務に就くようになり、さらにこの3・4年前より電子計算機のプログラマーとして、大いに数学を

生かせる職場に就く事を一般社会からも要求され、先輩諸師も意欲を燃やして、後輩の為に開拓の道を歩んでおられる。又もう一つの特色は、戦前戦中には家庭生活に入った人が多いのに、戦後その数が減るばかりであるという事、これは戦前戦中は数養の為に数学を学んでいた人が多いのに対して、戦後は特に最近就職が目的で学ぶ人が多くなった事を示しているようである。

II、職業経験の有無

Iで家庭生活に入った人が多いのに比べ、「有り」と答えた人が「無し」と答えた人より圧倒的に多いということは、大学で数学を学べばきっとそれを生かす時がある」と云えよう。

第 2 表

| 年代別 職業経験 | A | B | C | 計 |
|-------------|----|----|----|-----|
| | 有 | 9 | 49 | 40 |
| 無 | 2 | 6 | 5 | 13 |
| 計 | 11 | 55 | 45 | 111 |

III、学校で学んだ数学が卒業後

どんな風に役立ちましたか

これは表にはあらわせないので、Iの職業別により見
てみると、教師は当然役に立っているといえる。一般事
務はグラフ作製、数字データの整理等、時には簡単な微

第 3 表

| 年代別 家庭と職業 | A | B | C | 計 |
|--------------|------------|----|----|----|
| | 持っていて続けている | 2 | 9 | 4 |
| 持っていて途中でやめた | 2 | 4 | 7 | 13 |
| 持たずに入り途中で始めた | 0 | 6 | 3 | 9 |
| 持たない | 5 | 17 | 10 | 32 |
| その他の | 0 | 2 | 1 | 3 |
| 計 | 9 | 33 | 25 | 72 |

積・統計学が使われている。しかし、こゝで一番大切な
のは数学的物の見方、考え方、処理の仕方等というもの
が大きく役立っているという事である。電子計算機のプ
ログラマーは大学で学んだ以上の数学が必要とされてい
るので十分役立っているわけである。

IV、家庭と職業

その他は解答なしとか、止めたり始めたり転々として
いる人等である。やはり家庭に入ると職業を持たない人
が多いようです。

V、個人教授の経験

個人教授は一応IIIの職業経験有りに入れていないので
別項をもうけ調べました。戦前戦中は有りが多いのに比

第 4 表

| 年代別 個人教授の経験 | A | B | C | 計 |
|----------------|----|----|----|-----|
| | 有 | 9 | 37 | 24 |
| 無 | 2 | 18 | 21 | 41 |
| 計 | 11 | 55 | 45 | 111 |

べ戦後少なくなったというのは、家庭教師をする暇のな
い職業につくようになった為と思われる。

VI、数学科を選んだ理由

第 5 表

| 年代別 数学科を選んだ理由 | A | B | C | 計 |
|------------------|-----|----|----|-----|
| | 積極的 | 6 | 29 | 30 |
| 消極的 | 4 | 11 | 10 | 25 |
| その他 | 1 | 15 | 5 | 21 |
| 計 | 11 | 55 | 45 | 111 |

VII、既婚か未婚か

第 7 表

| 年代別 既婚・未婚 | A | B | C | 計 |
|--------------|----|----|----|-----|
| | 既婚 | 10 | 45 | 30 |
| 未婚 | 1 | 10 | 15 | 26 |
| 計 | 11 | 55 | 45 | 111 |

VIII、既婚の場合、御主人の職業

第 8 表

| 年代別 主人の職業 | A | B | C | 計 |
|--------------|-----|----|----|----|
| | 会社員 | 2 | 19 | 22 |
| 公務員 | 2 | 3 | 2 | 7 |
| 教師 | 3 | 10 | 1 | 14 |
| 医師 | 0 | 4 | 2 | 6 |
| 技師 | 1 | 5 | 1 | 7 |
| その他 | 1 | 4 | 2 | 8 |
| 計 | 10 | 45 | 30 | 85 |

VII、数学を学んで良かったと思いませんか

第 6 表

| 年代別 効果 | A | B | C | 計 |
|-----------|--------|----|----|-----|
| | 大変よかった | 9 | 35 | 35 |
| 普通 | 1 | 14 | 6 | 21 |
| 大して良くなかった | 1 | 6 | 4 | 11 |
| 計 | 11 | 55 | 45 | 111 |

その他には邦楽研究家、美術評論家、僧侶等がある。女性が数学科を出た場合結婚する相手の男性は、直接数学科にない職業が多い(会社員)。しかし戦前戦中には教師になる女性が多かったので、自然と相手の男性も教師が多かったのではないかと思われる。最後に、この調査に御協力くださった先輩諸師に厚く御礼申し上げます。なおまたS1は小河原先生の御教示によるものです。



札幌の数専会

及川 八重子

半年間の雪の生活より解放される四月頃ともなりますと、今年も又どなたか先にお目に懸れるという希望と喜びがふつと脳裡をかすめる瞬間があります。

予想通り小林先生より連絡がありまして、桂田さん、戸沢さんと三人で駅にお迎えし、街をブラ／＼歩き、ホテルのビールを頂き乍ら、楽しい語らいに時を過し、数専ならではの言った調子です。その節先生より夏に中谷先生御一行が数専会のために来札されることを知らせて頂き、大いに期待致しおりました。

一九六一年八月五日、午後四時駅前の石田屋喫茶店、これが待ちました数専会です。晴々とした中谷先生、大先輩の豊泉様、中屋様を筆頭に東京勢は六人位、小樽より東山様まいり、札幌は近藤様と加えて四人といふ。卒業以来始めて位大人数の数専会です。お互に初対面の人もありながら、不思議と和やかな集りです。雑談の合い間／＼に数専に学びました事の幸福感と感謝の念が妙に湧いて来るのを覚えました。

自己紹介という事で、席順の関係上豊泉様が先づ口を切るようになりましたが、何時の間か自己紹介は脱線し

て理学部設置に関する長年の労苦、苦心、努力の方向に発展して私は数専会の方々のなみ／＼ならぬ努力に胸を打たれ、余りにも無関心に過していた事に強く反省させられますと同時に、心より皆様に感謝致しました。心なしか豊泉様も涙ぐんでいられた様に見うけられて胸一っばいでした。話が続いて中谷先生が「これが自己紹介ですか？」と皆を笑わせる。先生からは学校側のお話を補足して下さい、これ又感謝の連続です。次に中屋様より数専会の事についてお話があり、念願としていた理学部の設置が完成された現在、会を解散してはどうとの思いもよらぬ意見をきかされ、驚きました。

又役員の改選なども申されましたが、会をこのまま存続させてほしいとおねがいするには一人々々が大いに理解し協力しなければいけないと感じた次第です。

さいごにこちらを代表した様な形で桂田さんが二年間スイスとイタリーに留学した頃の種々の体験談、勉強法、外地の模様をお話して、これ又別の意味からこの日の大きな収穫でした。

散会后、帰路につきながら数専会の発展を心より念じました。短い時間の中に様々の事を考えさせられ、又教えられて明日へのよりよき生活の糧になった事をしみじみ感じました。先生始め皆様の御健康を心より念じつゝ、ペンを置きます。

編集後記

緑まばゆい新緑の季節も終りに近づきさわやかな初夏の訪れとなりました。みな様御元気に御過しのこと、存じます。数専会会報第七号を御届け致します。昨年中に発行の予定のところ、責任者の不行届の為、大変延引致しました事を御詫び申し上げます。しかし今回は私共永年の希望でありました文理学科数理学科新設の経過又新設に際しての、みな様方のおよるこの言葉等、沢山の原稿を掲載する事が出来ました事は何よりで御座居ました。新学部も正田先生はじめ、新任の先生方共に変な御努力により着々と内容を充実して居られると伺いよることにたえない事で御座います。

在京の方、又地方在住の方今後とも数専会を通じて数理学科の発展のために御力添え下さいませ御願いたします。(会報係)

会報 第七号

発行日 昭和三十七年 六月

発行者 東京女子大学同窓会 数専会

東京都杉並区井荻三丁目

発行所 東京女子大学 内

印刷所 氷見印刷所

東京都杉並区西高井戸二ノ三
電話(三九二)七九三六番